lymphocytes of Old World monkeys. 6th Sapporo Cancer Seminar, Sapporo.
16) 石田貴文・山本興太郎（1986）：アジア太平洋地域におけるHTLV－I陽性集団。日本癌学会総会，札幌。
17) 石田貴文・竹中　修・植田信太郎（1986）：霊長類細胞及び遺伝子バンクの設立。日本人類学会，福岡。
18) Sato, H., Asaoka, K., Semba, R., Aono, S. and Kashiwamata, S.(1986): Increase of glutathione *S*-transferase and its localization in the hypoplastic cerebellum of jaundiced Gunn rats. 17th FEBS Meeting, Berlin (west), Germany. Biol. Chem. Hoppe-Seyler, 367, 303.
19) 原中美枝・高田　肇・猪子英俊・安藤麻子・松野直徒・竹中　修・村山裕一・三輪宜勝・辻　公美・関口　進・入　久巳（1986）：ニホンザルMHC遺伝子の系統発生学的研究。第16回日本免疫学会，東京。
20) 羽柴克子・桜山のり子・村山裕一・野口淳夫（1986）：ニホンザルB細胞を認識するモノクローナル抗体。第2回日本霊長類学会，名古屋。

系統研究部門

江原昭善・野上裕生・相見　満・瀬戸口烈司

研究概要

1) 霊長類各分類群の比較形態学的研究
江原昭善

(i) ヒトおよび霊長類の下顎骨の機能的・形態学的研究。

(ii) ヒトおよび霊長類各分類群における頭蓋底部とPostureの関連。

2) エチオピアにおける化石霊長類および化石人類の研究
江原昭善・相見　満

3) ヒトを含む霊長類の起源と系統
江原昭善・相見　満他

4) 東海地方出土人骨・動物骨の研究
江原昭善・相見　満・木下　實

(i) 伊川津遺跡出土人骨調査
江原昭善・松本　真・木下　實

(ii) 刈谷市出土人骨・獣骨の調査総括
江原昭善・相見　満

5) 東海洞窟遺跡の人類学的・先史学的研究
江原昭善・相見　満・木下　實他

6) 南アメリカの第三紀の地史学的研究
野上裕生

7) 霊長類の歯の組織学的研究
野上裕生

8) ジャバにおける第四紀哺乳類の研究
相見　満

9) スマトラにおける霊長類の形態学的研究
相見　満・松本　真

10) 第三紀食虫類・原猿類および有袋類の研究
瀬戸口烈司他

(i) 南米出土化石について

(ii) 南米大陸とヨーロッパ大陸出土の第三紀食虫類化石の対比

論　文

1) 江原昭善・松本　真・木下　實（1986）：朝日遺跡出土の犬骨について。人類学雑誌，94(3):307-313.
2) Aimi, M., H.S. Hardjasasmita, A. Sjarmidi and D. Yuri(1986): Geographical distribution of aygula-group of the genus *Presbytis* in Sumatra. Kyoto Univ. Overseas Res. Rep. Studies on Asian Non-Human Primates, 5 : 45-58.
3) Setoguchi, T., 1986 : Relation between Morphology and Function of the Dentition in the *Stirtonia-Alouatta* Lineage (Ceboidea). In : Current Perspectives in Primate Biology (D.M. Taub & F. A. King, Eds.), van Nostrand Reinhold Co., New York : 201-213.
4) 瀬戸口烈司（1986）：ニホンザルとアカゲザルの分岐時期の再考ー根井の式に関連してー。人類誌，94:183-188.
5) 瀬戸口烈司（1986）：根井の式は分子時計として有効か？　ー中立説に関連してー。人類誌，94:319-324.
6) Setoguchi, T., Shigehara, N. Rosenberger, A. L. & Cadena, A.(1986): Primate Fauna from the Miocene La Venta, in the Tatacoa Desert, Department of Huila,

Colombia. Caldasia, Vol. 15, Nos. 71-75 : 761-773.

総説・報告

1) 江原昭善（1986）：現代社会とスポーツ。都道府県市町村社会体育全国大会。文部省体育局主催。
2) 江原昭善（1986）：「家畜化」概念はホミニゼーションにどこまで適用できるか。日本哺乳類学会シンポジウム。
3) 江原昭善（1987）：人類。文化人類学事典，389-391. 弘文堂。
4) 江原昭善（1987）：霊長類・霊長類学。文化人類学事典，831-833. 弘文堂。
5) 江原昭善（1986）：咀嚼システムとホミニゼーション。文部省特定研究「咀嚼システム」昭和61年度シンポジウム。
6) 江原昭善（1986）：揺れ動く人類起源論。アフリカ学会中部支部例会。
7) 江原昭善（1987）：人間性の起源と進化。日本放送出版協会。
8) 相見　満（1987）：パンダに滅ぼされた人類の祖先。ウータン，6(4):30-35.
9) 瀬戸口烈司（1986）：古生物学からみた分子時計の問題点。霊長類研究，2:5-8.
10) 瀬戸口烈司（1986）：「歯の比較解剖学」（後藤仁敏，大泰司紀之編），医歯薬出版，東京，pp. 267（共著）。

学会発表

1) 相見　満（1986）：コノハザルの分布の展開 ― スマトラでの例。 第2回日本霊長類学会大会。
2) 相見　満（1986）：スマトラのコノハザルの分布の展開 ― 毛色の変異を中心として。第40回日本人類学会日本民族学会連合大会。
3) 瀬戸口烈司（1986）：南米サル化石の地質年代。第2回日本霊長類学会大会。
4) 瀬戸口烈司（1986）：南米サルの中新世における適応放散。第40回日本人類学会日本民族学合連合大会。

ニホンザル野外観察施設

岩本光雄（施設長・兼）・東　滋・渡辺邦夫

本施設の運営は上記3教官のほか，川村俊蔵・和田一雄・鈴木　晃によって進められた。昭和61年度の各ステーション関係の状況は次の通りである。

1. 幸島観察所

幸島の群れは昭和23年以来の畜積された資料をもとに野外観察施設の中では独自の位置を占めている。今年度は室山によるグルーミング関係の研究，宮藤による群れの統合度の研究（いずれも霊長研大学院生）などが行われた。この3年間ほどは春先から夏にかけて，砂が島との間に堆積し，地続きになる状態がつづいている。例年夏の台風によってその状態が解消されるが，観光客がこの期間どんどん島へ歩いて渡れるため，サル番を出して監視している。またマキグループの老ボスであるノスリは交尾期になると群れを追われ，昨年は主群から出ていったカニによって，今年は同じくゲバによって，完全に群れから追われてしまっている。今年度訪れた研究者は延270人日であり，その他大学，報道機関等の関係者は延100人日以上になる。59年3月の時点での島内の個体数はマキグループ13頭を含め100頭であり，この10年間ほとんど変動していない。〔今年度中の出産は15例中うち3頭が死亡した〕

2. 下北研究林

岡野美佐夫・東　英生（共同利用研究員）は3月下旬～4月初旬にM群を追跡し，オトナメス1頭にテレメーター発振器を装着した。まったく餌づけされていない野生群の麻酔捕獲としては最初の例である（M群は人づけされてはいる）。各月10日間7月まで追跡したが，追跡中に発振がとだえた。回路部品の初期不良によると思われる。1986年の岡野による新葉の採食からチシマザサのタケノコの採食にいたる土地利用を再確認し，チシマザサ採食のさいの遊動の特性が明らかになった。

12月にあしの会（森治代表）と共同で全域の分布と個体数の調査を行った。Z群は2つ，I群は3つのグループに分れていた。行動域も既知のよりさらに拡大していることが判明した。

3. 上信越研究林

横湯川流域の植生と Seed trap 法による果実生産量の調査（小見山章，岐阜大），志賀C群の